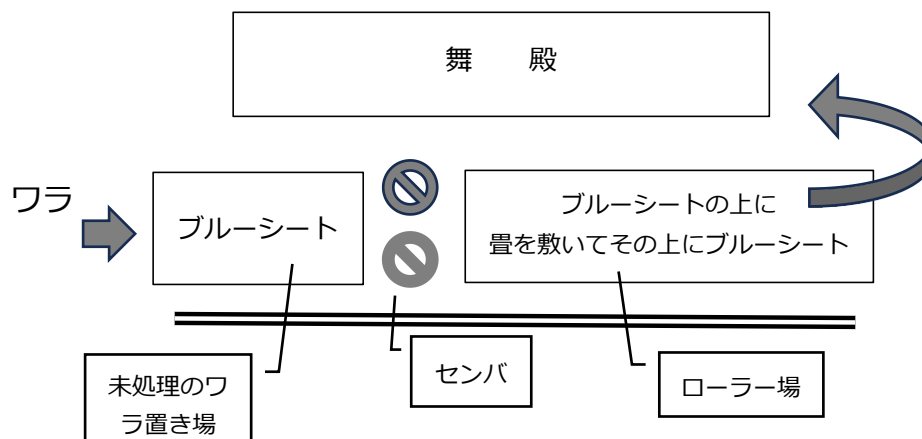


令和 6 年秋季例大祭 注連縄作りの作業内容と分担

1. 注連縄用ワラのほぐし作業

総担当	末国栄之助		
日時	R6 年 9 月 15 日（日）午前 8 時～		
場所	志賀神社 舞殿の前広場		
参加者	大坪常会（本当屋）全員 飲み物用意（担当： ）		
道具類	名 称	準備担当	備考
	ワラ運搬用軽トラ（2 台）		
	千歯・センバ（2 台）	末國（栄）	
	1 トンローラー、ユニック車	坊田	
	タライ（2 個）	末國（富）	
	押切り		
	一輪車（2 台）	末國（富）1 台	
作業順	1. 集合した後、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽トラ 2 台（4 名）でワラを取りに行く。 ・ 残った者は、末国（栄）より作業内容を説明し、 ・ ブルーシート、センバ、畳などを設置 2. ワラをセンバに掛け、タライで根元をそろえてローラー場に並べる。 3. ローラー場にワラが並んだらローラー掛け（往復 2 回） 4. ワラを舞殿のブルーシート上に並べていく。 5. 2～4 を繰り返す。 6. 終わったら、ワラをブルーシートで被い、作業後を清掃する。 7. ワラを保管していた駅組倉庫の掃除		



2. 注連縄ない作業

総担当	末国栄之助		
日時	R6 年 9 月 22 日（日） 午前 8 時～		
場所	志賀神社 舞殿の前広場		
参加者	中の村当屋 全員 飲み物用意（担当： ）		
お祓い	作業終了後に全員 御供え（清酒 2 升、イリコ）		
準備物	注連縄（機械縄）150m、祓い殿注連縄（手縄）26m		
道具類	名 称	準備担当	備考
	毛切りハサミ、カマ	各自	
	押切り（2 台）		
	脚立（3m 級、1 脚）		
	巻尺（50m、5m 各 1）		
	ロープ（大注連縄用）		
	PP ロープ（1 巻）		
	荷札（30 枚程度）、ゴミ袋、マジックペン		
師匠	注連縄作り：貢 通総 房作り：末国征男		
作業順	1. 本当屋役員は 7 時半からブルーシート敷などの準備 2. 8 時に当屋要員が集合した後、挨拶と作業の説明 3. 大注連縄は、舞殿で 2 組（1 組 6～7 名）が師匠の指導下で作る。 4. 小注連縄は、舞殿前広場で場所別の長さに切り荷札を付ける。 （取付け場所、長さ、本数を記した荷札を必要数だけ用意） 5. 完成した注連縄の毛切り 6. 完成した注連縄を祓い殿にて保管する。 7. 全員でお祓いを受ける。		

参考 1 : 注連縄の種類と本数

[大注連縄]

	設置場所		長さ	青竹切 (4本)	鈴 (計 14 個)	御幣
大注連縄	祓い殿	内部	3.5m(毛切り)	無	無	○
	祓い殿	入口	6.0m(毛切り)	無	総 3 個	○
	白鳥神社	入口	4.0m(毛切り)	4.0m	総 2 個	○
	鳥居	門柱(石)	5.0m	5.0m	総 3 個	○
	鳥居	木作	5.0m	5.0m	総 3 個	○
	鳥居	祭礼原	5.5m	5.5m	総 3 個	○
	青竹は真竹を使って取り付けること					
5mm縄	鈴用 1 m左縄		14×3 = 42 本			
	端結び用		2 (両端) ×6 本分 = 12 本 計 54 本			

[小注連縄]

場所	長さ	本数	青竹	場所	長さ	本数	青竹
祓い殿	26m	1		踏切前	5m	1	
神輿倉	8m	1		駅舎前	6m	1	
若宮社	6m	1		大船橋	3.5m	2	4
湯沸し場	8m	1	4	落合橋	3.5m	2	4
白鳥社	5m	1		金の御幣(集会所)	6m	2	2
舞殿前	8m	1		金の御幣(中)	6m		
杉の木	3.5m	2		神輿置き場	15m	1	
杉の木間	5m	1		祭礼原出口	6m	1	2
ガヤの木	3.5m	2		御幣櫃	4m	1	
山伏墓	1.5m	1	2				
相撲取り墓	1.5m	1	2	計		24	20

参考 2 : 注連縄の取付け場所

志賀神社境内図に記載

参考 3 : 紙垂について

必要数はすべて宮司が作成し、幟立て時に併せて小注連縄に取り付ける。